

No.647  
ま  
子どもたちは  
お坊さん高校生

# 茶髪一転、土家、お勤め

勵んだという。戦後は男女共学になり、僧侶聖職者以外の入学も増加。一方で寺院の後継者たちは地元の一般校に進むケースが増えた。

現在、同校は特別進学コースやスポーツコースなどからなる普通科と宗教科の2本立てだ。

宗教科では、1年生の終わるまでは1種類のお経を暗記し、卒業するまでは法事のほか、

布の実をもする。同校は交通が極めて不便なため、ほとんどの生徒が親元を離れて、今も117の寺院が立ち並び、人口3500人の

町に僧侶は約600人いる。

町の中心部にある私立高野山

高校。昨年11月23日、約140

人の全教生徒が講堂に集まり、

「追悼法会」が開かれた。同校

のすべての関係者を供養するた

め、真言宗で最も格が高い法会

の形を取る。

主役を務めるのが、宗教科3

年生の男女生徒7人だ。本物の

袈裟に身を包み、シンバルのよ

うな聖用の楽器を鳴らし、約1

時間半にわたり、様々なお経

を唱える。堂々と執り行う姿

は、とても高校生に見えない。

宗教科では、男女生徒とも入

学と同時に出家。戒名を授かっ

て、真言宗の僧侶見習いとし

て、高校は多教あるが宗教家を目指すコースがあるのは珍しい。同

校は「宗教科」という学科があるのがただだけ」という。

同校は真言宗の僧侶養成校として明治に開学。当時は男学生徒のみで、全国から集まつた弟子たちが聖業で勉強や修行に

入り、寮に入るか、お寺に住み込

む、「寺生」として通学していく

が、この環境が、

不登校やいじめなど様々な悩み

を抱えた生徒が重ヌタートを切

る場にならうとして注目を浴

びいる。

追悼法会には、堅張した面持

りでお経を唱える平幡航正君

(18)の姿があった。まつだつ

は2度目。前回はいまだつ

た。「朝のお勤め」

に進学する)ことが決まってい

たので氣合が入った。

「高校3年間で一番いい経験

だった」

平幡君は今春、隣接する1年

制の専門学校、高野山専修学院

に進学する)ことが決まってい

たので氣合が入った。

「高校3年間で一番いい経験

だった」

平幡君は今春、隣接する1年

制の専門学校、高野山